

シーンⅢ-5 セツ森里山環境学習林整備事業

事業目的

県のほぼ中心部にあるセツ森県有林を「里山環境学習林」に位置づけ、多くの県民が身近に里山とふれあう場として整備し、多様な生物が生息・生育する里山の理解と関心を深めることで、県民参加による里山の環境改善への気運の醸成を図ります。

事業効果

CO2削減効果	48t - CO2
その他 (森林整備面積)	12ha

事業内容

環境学習林整備

【全体計画】

森林整備A=35ha 管理車道整備1式 林内歩道整備1式
案内板・解説板等整備1式 駐車場整備1箇所 その他

【平成27年度事業費】 20,000千円(環境税充当額20,000千円)

【事業量】 森林整備12ha他 【実施主体】 宮城県

【事業内容】 森林の下刈、除間伐のほか、管理車道、林内歩道、案内板、
学習用資機材等の整備を行います。



里山環境学習林イメージスケッチ

現状



セツ森県有林内のコナラ林

現状は、里山林の管理不足等により、森林の持つ公益的機能の低下や生物多様性への影響が危惧されており、保健休養機能が高く、視覚的に好まれる森林景観への誘導と身近な里山の有効利用の促進が重要な課題となっています。

県のほぼ中心部にあるセツ森県有林は、里山を象徴する集落周辺の丘陵地で、コナラ等の広葉樹を主体とする林相は、環境教育フィールドにも適した森林であり、これを「里山環境学習林」に位置づけ、多くの県民が身近に里山にふれあう場として整備します。

税導入後のイメージ

整備後は、研究機関、NPOやボランティア団体と共同で里山管理の技術講習会、県民の自然観察や体験学習会等を開催し、里山環境学習の場として利用します。

また企業による森づくり活動への参加気運が高まるなか、事業区域内に植林ゾーンも確保し、森づくりへの多様な主体の参加を促していきます。



里山林の観察会



県民参加の植樹活動